1604年に完成した五大堂は、東北地方で最も豊かな藩をつくった伊達政宗（1567–1630）によって松島に建てられた最初の寺院である。その建物は、日本北部に天台宗の教えをもたらした僧侶、円仁（794-864）によって建てられていた古い寺院を改造したものである。円仁の寺院より前には、北の守護神として知られ、仏教の武神である毘沙門を拝むためにここに礼拝所が建てられていた。この礼拝所は当時、東北に住んでいた先住民族の蝦夷を倒すために、都から送られた将軍坂上田村麻呂（758-811）が建てた。円仁が五大堂を建てたとき、別の守護神である五大明王を奉った。政宗は、四角いテント付きの屋根、入り口の張り出し屋根、柵で仕切られたベランダを付けて、寺院を再建した。ひさしの下の支柱には中国の十二支が彫られている。寺院とその中の仏像は、重要文化財に指定されており、寺院の中の仏像は33年に一度開帳される。